

## 第5章 地域経済の認識



## 第5章 地域経済の認識

本章では、沖縄県の振興のために各産業分野にどれくらい力を入れるべきかを見る産業振興の優先度のほか、「離島・過疎地域等の振興」「米軍基地問題の解決促進」及び「行財政改革の推進」など、沖縄21世紀ビジョン実現に向けて特に重点を置いて取り組むべき施策の優先順位について、県民の意識を見ていく。

### 1. 産業振興の優先度（問11）

今回調査では一部質問項目の文言に変更がある。

問11の変更一覧

質問項目の文言追加
(15) 商業（卸売・小売りなど）⇒ (15) 商業・貿易（卸売・小売り・輸出入など）

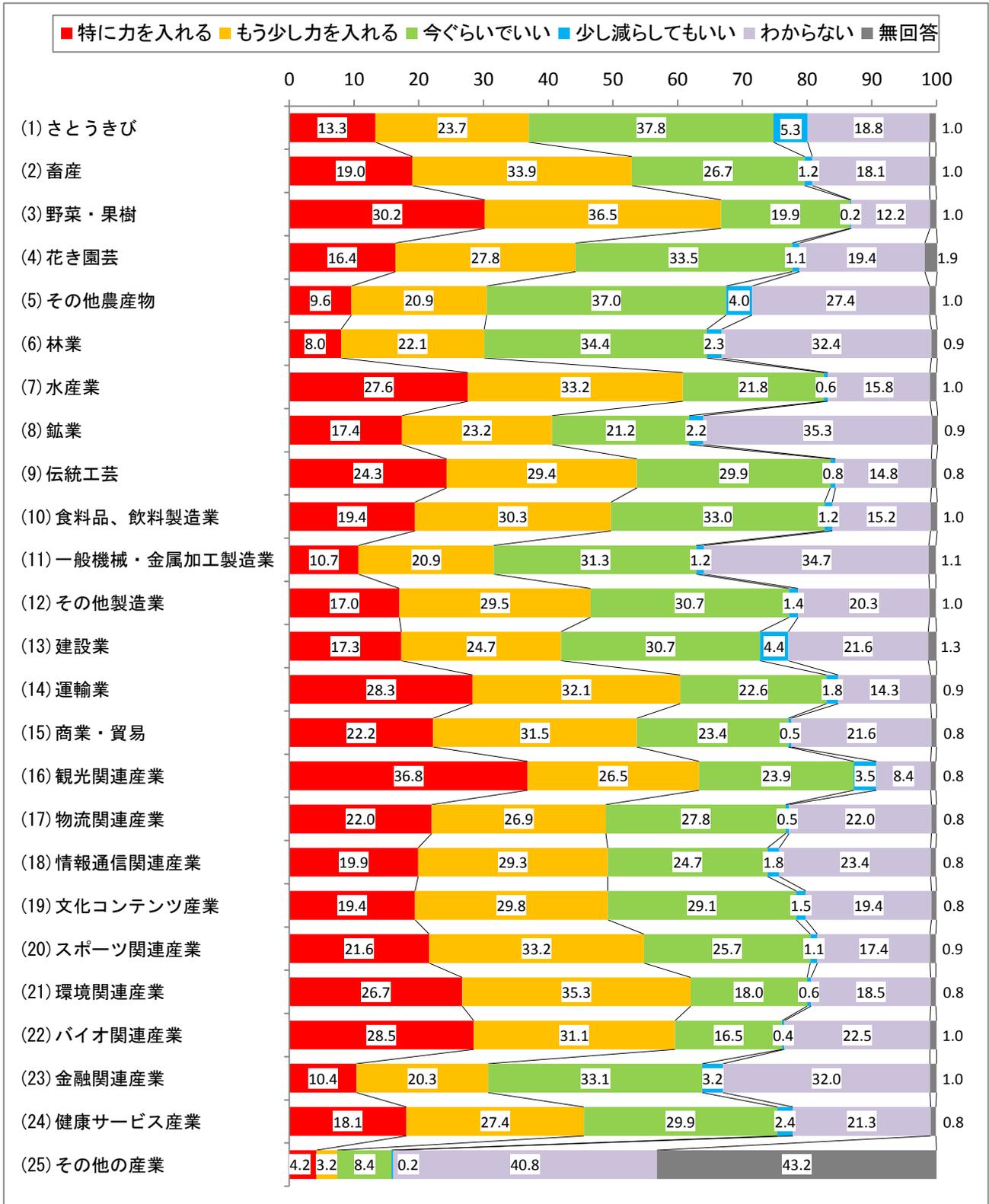
#### (1) 各産業の優先度

「特に力を入れる」「もう少し力を入れる」「今ぐらいでいい」「少し減らしてもいい」「わからない」の選択肢から回答してもらい、その集計結果をまとめたのが図5-1-1である。「特に力を入れる」べきだとする割合の高い順に上位10項目は、1位が(16)観光関連産業36.8%、2位が(3)野菜・果樹30.2%、3位以下は(22)バイオ関連産業28.5%、(14)運輸業28.3%、(7)水産業27.6%、(21)環境関連産業26.7%、(9)伝統工芸24.3%、(15)商業・貿易22.2%、(17)物流関連産業22.0% (20)スポーツ関連産業21.6%となっている。

逆に「特に力を入れる」べきだとする割合の低い産業は(25)その他の産業4.2%、(6)林業8.0%、(5)その他農産物9.6%、(23)金融関連産業10.4%、(11)一般機械・金属加工製造業10.7%、(1)さとうきび13.3%、(4)花き園芸16.4%、(12)その他製造業17.0%、(13)建設業17.3%、(8)鉱業17.4%となっている。下位3項目は10%を下回るが、それ以外は10%を上回っていて、上位項目との差はそれほど大きくない。

「少し減らしてもいい」とする割合の高いのは、(1)さとうきび5.3%、(13)建設業4.4%、(5)その他農産物4.0%、(16)観光関連産業3.5%、(23)金融関連産業3.2%であるがさとうきび以外の項目はいずれも前回より数値が下がっている。

図 5-1-1 産業振興の優先度 (%)



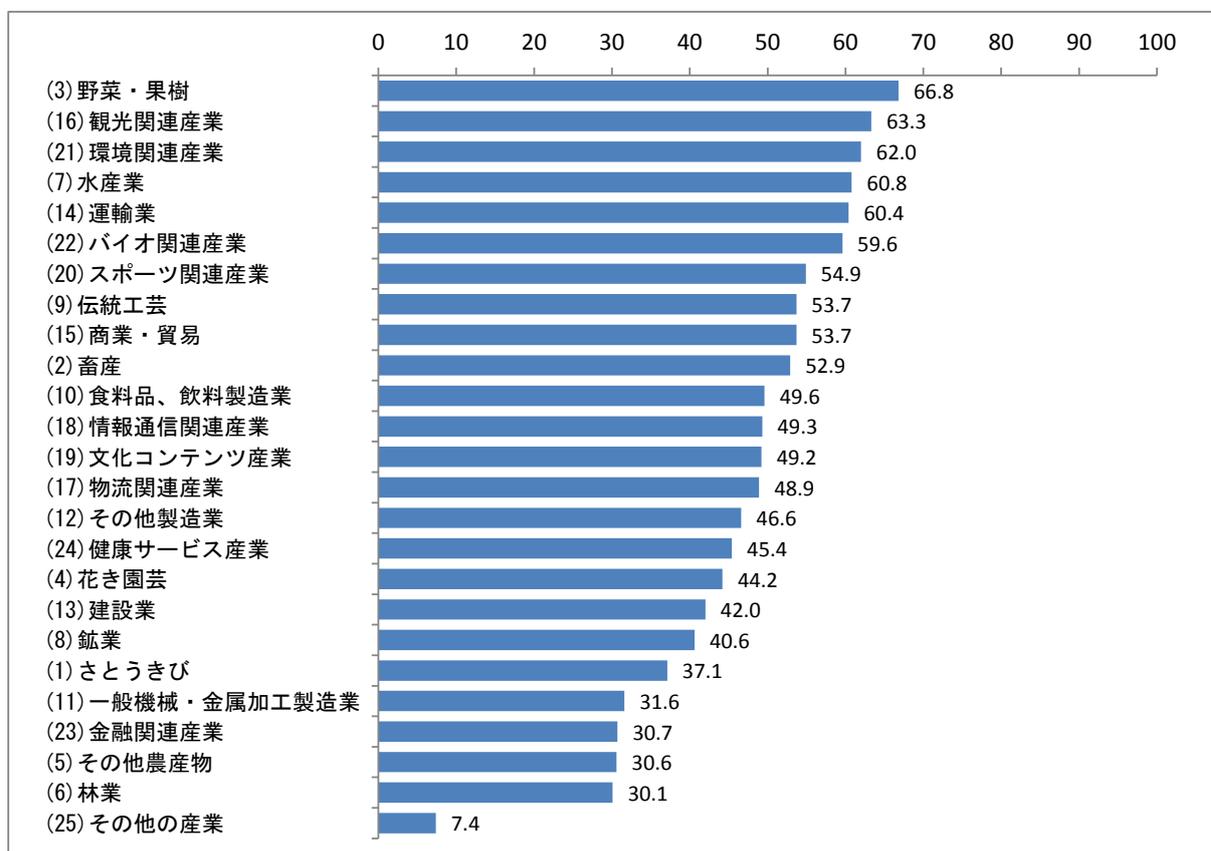
続いて、「特に力をいれる」と「もう少し力をいれる」を合計した結果をまとめたのが図5-1-2である。合計数値が高いほど産業振興の優先順位が高いと解釈される。

優先順位が高い上位10項目は、(3)野菜・果樹66.8%、(16)観光関連産業63.3%、(21)環境関連産業62.0%、(7)水産業60.8%、(14)運輸業60.4%、(22)バイオ関連産業59.6%、(20)スポーツ関連産業54.9%、(9)伝統工芸53.7%、(15)商業・貿易53.7%、(2)畜産52.9%である。

これらを前回調査と比較する。1位の(3)野菜・果樹は、前回も1位で合計比率が66.2%から今回66.8%と0.6ポイント増加した。2位の(16)観光関連産業（前回3位→2位）は合計比率が61.1%から63.3%と2.2ポイント増、3位(21)環境関連産業（前回2位→3位）は合計比率が62.4%から62.0%と0.4ポイント減、4位(7)水産業（前回3位→4位）は合計比率が61.1%から60.8%と0.3ポイント減、5位(14)運輸業（前回5位→5位）は合計比率が58.2%から60.4%と2.2ポイント増、6位(22)バイオ関連産業（前回6位→6位）は合計比率が57.4%から59.6%と2.2ポイント増、7位(20)スポーツ関連産業（前回8位→7位）は合計比率が52.9%から54.9%と2.0ポイント増、8位(9)伝統工芸（前回7位→8位）は合計比率が57.1%から53.7%と3.4ポイント減、同じく8位(15)商業・貿易（※ただし、前回調査では「商業」）（前回12位→8位）は合計比率が51.2%から53.7%と2.5ポイント増、10位(2)畜産（前回9位→10位）は合計比率が52.1%から52.9%と0.8ポイント増加した。

このほか「(19)文化コンテンツ産業」が順位は10位から13位に、合計比率は51.4%から49.2%に低下した。

図5-1-2 産業の優先度（特に力をいれる+もう少し力をいれるの合計）（%）



## (2) 地域別に見た産業振興の優先度

それぞれの産業について「特に力をいれる」「もう少し力をいれる」の2つについて合計した結果を地域別に集計したのが図 5-1-3 である。

北部地域の1位は(3)野菜・果樹、2位は(16)観光関連産業、3位は(21)環境関連産業、4位は(7)水産業、5位は(14)運輸業、6位は(22)バイオ関連産業で6位まで県全体と同じ項目が同順位で並んでいる。7位以下も順位の上下はあるが、県全体と同じ項目があげられている。

中部地域は北部地域と同じく、1位は(3)野菜・果樹、2位は(16)観光関連産業、3位は(21)環境関連産業、4位は(7)水産業、5位は(14)運輸業、6位は(22)バイオ関連産業で6位まで県全体と同じ項目が同順位で並んでいる。7位以下も順位の上下はあるが、県全体と同じ項目があげられている。

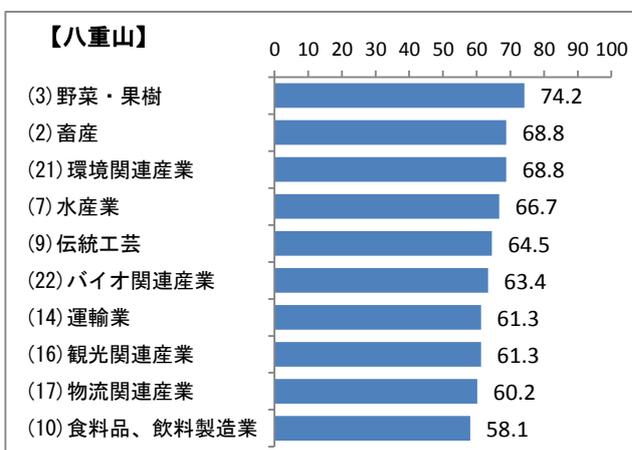
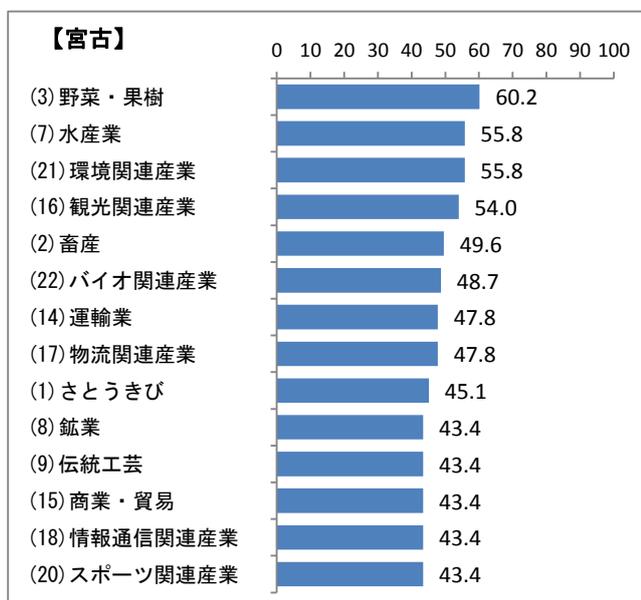
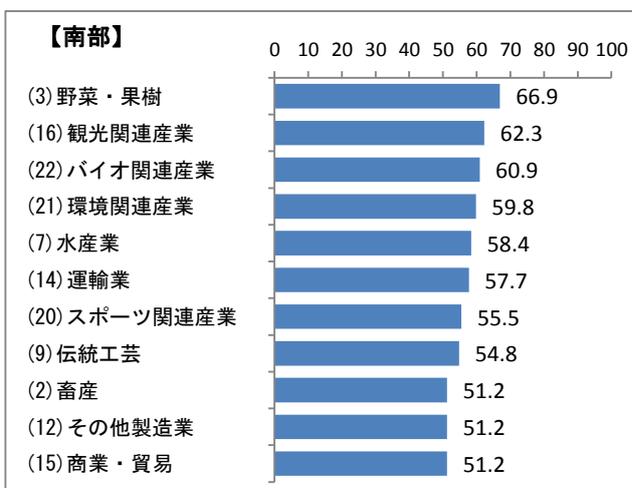
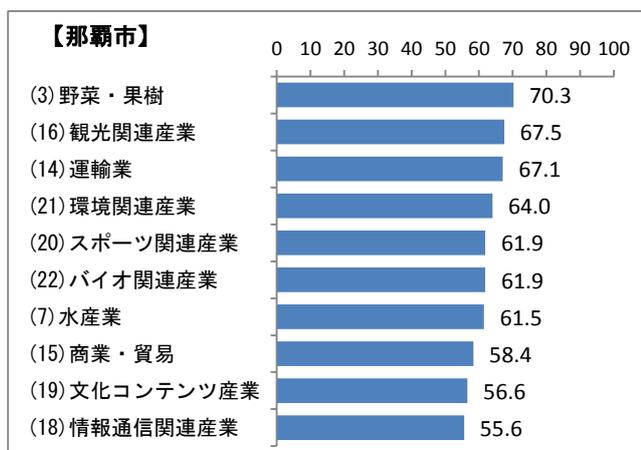
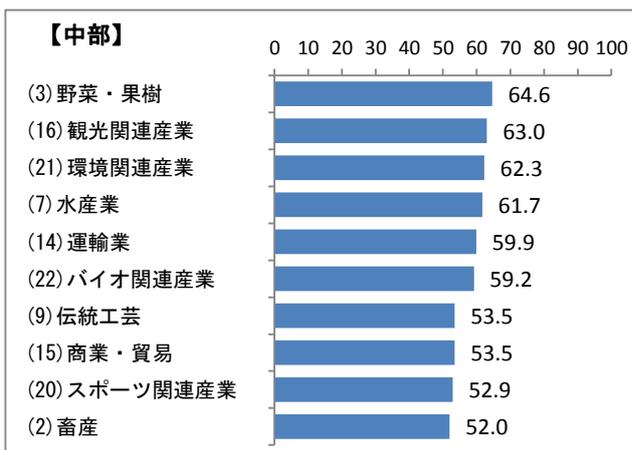
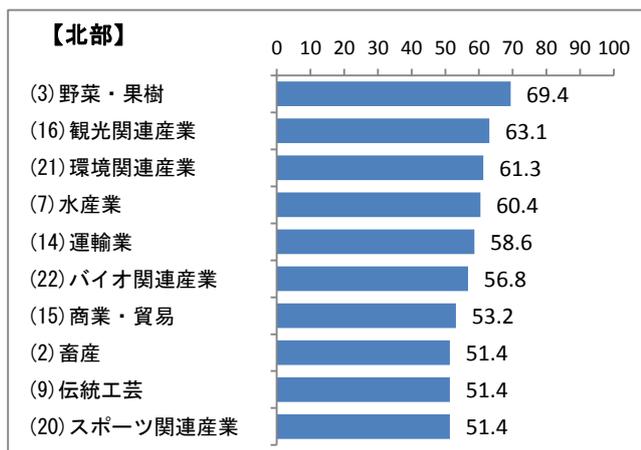
那覇市の1位は(3)野菜・果樹、2位は(16)観光関連産業、3位は(14)運輸業、4位は(21)環境関連産業、5位は(20)スポーツ関連産業及び(22)バイオ関連産業、7位は(7)水産業、8位は(15)商業・貿易で、県全体の傾向よりも運輸業とスポーツ関連産業、バイオ関連産業の優先度が高い。また、県全体では13位の(19)文化コンテンツ産業が9位、12位の(18)情報通信関連産業が10位に入り優先度が高くなっている。

南部地域の1位は(3)野菜・果樹、2位は(16)観光関連産業、3位は(22)バイオ関連産業、4位は(21)環境関連産業、5位は(7)水産業で、県全体の傾向よりバイオ関連産業の優先度が高い。また、県全体では15位の(12)その他製造業が9位に入り優先度が高くなっている。

宮古地域の1位は(3)野菜・果樹、2位は(7)水産業、3位は(21)環境関連産業、4位は(16)観光関連産業、5位は(2)畜産で、県全体の傾向より水産業と畜産の優先度が高い。また、県全体では20位の(1)さとうきびが9位に入り優先度が高くなっている。

八重山地域の1位は(3)野菜・果樹、2位は(2)畜産及び(21)環境関連産業、4位は(7)水産業、5位は(9)伝統工芸、6位は(22)バイオ関連産業、7位は(14)運輸業及び(16)観光関連産業で、県全体の傾向より畜産の優先度が高い。また、県全体では14位の(17)物流関連産業が9位に、11位の(10)食料品、飲料製造業が10位に入り優先度が高くなっている。

図 5-1-3 地域別 産業振興の優先度 (%) 上位 10 項目



### (3) 産業の優先度の推移

産業ごとに「特に力をいれる」に4点、「もう少し力をいれる」に3点、「今ぐらいでいい」に2点、「少し減らしてもいい」に1点のウェイトを与えて加重平均を求め、さらにこれらの産業を4つのカテゴリーに分けて時系列比較を行ったのが図5-1-4である。加重平均を求めるにあたっては、「わからない」と回答する割合が大きい産業が一部にあるため無回答とともに母数から除いた。

力を入れるべき産業の推移を見ると、どの産業も若干の増減はあるものの変化は小さい。

図5-1-4 力を入れるべき産業の加重平均の推移

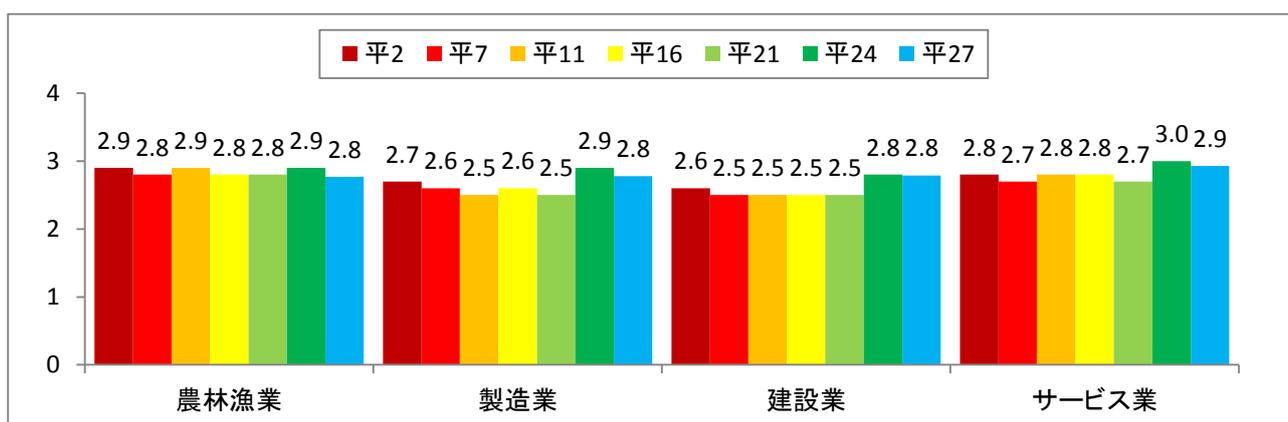


表5-1-1 産業別 加重平均の推移

	平7	平11	平16	平21	平24	平27
農林漁業	2.8	2.9	2.8	2.8	2.9	2.8
さとうきび	2.6	2.7	2.7	2.8	2.7	2.6
畜産	2.7	2.8	2.8	2.9	2.9	2.9
野菜・果樹	*	*	*	*	3.2	3.1
花き園芸	3.0	3.0	2.8	2.8	2.8	2.8
その他農産物	2.5	2.5	2.4	2.4	2.6	2.5
林業	2.7	2.6	2.6	2.7	2.6	2.5
水産業	3.0	3.0	3.1	2.9	3.1	3.1
製造業	2.6	2.5	2.6	2.5	2.9	2.8
伝統工芸	2.9	3.0	3.0	2.9	3.0	2.9
食料品、飲料製造業	2.8	2.8	2.8	2.7	2.9	2.8
一般機械・金属加工製造業	2.4	2.3	2.3	2.4	2.8	2.6
その他製造業	2.5	2.4	2.5	2.5	2.9	2.8
建設業	2.5	2.5	2.5	2.5	2.8	2.8
鉱業	2.5	2.4	2.5	2.5	3.0	2.9
建設業	2.6	2.6	2.5	2.6	2.7	2.7
サービス産業	2.7	2.8	2.8	2.7	3.0	2.9
運輸業	2.6	2.6	2.8	2.8	3.0	3.0
商業・貿易	2.6	2.7	2.6	2.6	2.9	3.0
観光関連産業	2.7	2.8	2.8	2.6	3.1	3.1
物流関連産業	*	*	*	*	3.0	2.9
情報通信関連産業	2.9	3.2	2.9	2.9	3.0	2.9
文化コンテンツ産業	2.9	3.0	2.9	2.8	2.9	2.8
スポーツ関連産業	*	*	*	*	2.9	2.9
環境関連産業	*	*	3.2	3.0	3.2	3.1
バイオ関連産業	*	*	*	*	3.2	3.2
金融関連産業	*	*	*	*	2.6	2.6
健康サービス産業	*	*	*	*	2.8	2.8
その他の産業	*	*	3.4	3.5	2.8	2.7

## 2. 重点施策の優先度（問 12）

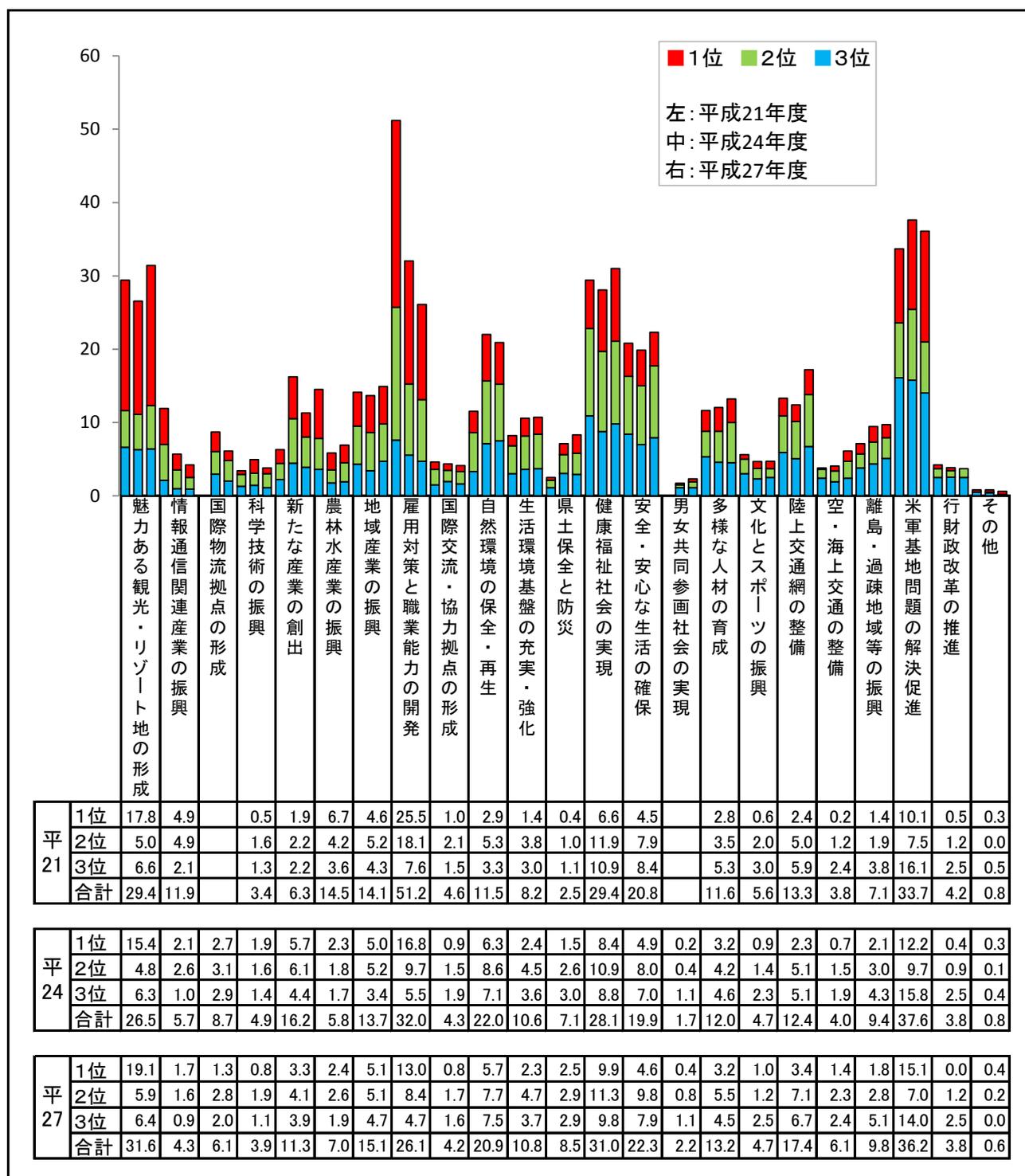
### (1) 順位別に見た重点施策

県の施策として行政が重点を置いて取り組むべきことは何かについて、23 の選択肢の中から順位をつけて3つを選んでもらった。

選択された3つの施策の1位、2位、3位にそれぞれの比率の合計を棒グラフにし、過去の調査（平成21年度、平成24年度）の結果と比較したのが図5-2-1である。

優先度が高いほうから「米軍基地問題の解決促進」（36.2%）、「魅力ある観光・リゾート地の形成」（31.6%）、「健康福祉社会の実現」（31.0%）、「雇用対策と職業能力の開発」（26.1%）、「安全・安心な生活の確保」（22.3%）、「自然環境の保全・再生」（20.9%）、「陸上交通の整備」（17.4%）、「地域産業の振興」（15.1%）、「多様な人材の育成」（13.2%）、「新たな産業の創出」（11.3%）、「生活環境基盤の充実・強化」（10.8%）の順となっている。

図 5-2-1 重点施策の優先度 (%)



前回との比較では、今回1位の「米軍基地問題の解決促進」は 37.6%から 36.2%へ若干の減少、2位の「魅力ある観光・リゾート地の形成」は 26.5%から 31.6%へ、3位の「健康福祉社会の実現」は 28.1%から 31.0%へそれぞれ増加している。4位の「雇用対策と職業能力の開発」は 32.0%から 26.1%へ、10位の「新たな産業の創出」は 16.2%から 11.3%へそれぞれ減少している。

また1番目に力を入れてほしい施策として最も高かったのは「魅力ある観光・リゾート地の形成」(19.1%)で、次いで「米軍基地問題の解決促進」(15.1%)、「雇用対

策と職業能力の開発」(13.0%)が続いている。

2番目については、「健康福祉社会の実現」(11.3%)、「安全・安心な生活の確保」(9.8%)、「雇用対策と職業能力の開発」(8.4%)の順となっている。

また、3番目については「米軍基地問題の解決促進」(14.0%)、「健康福祉社会の実現」(9.8%)、「安全・安心な生活の確保」(7.9%)、「自然環境保全・再生」(7.5%)と続いている。

## (2) 地域別に見た重点施策

重点施策を地域別に加重平均で比較したのが図5-2-2である。

県全体1位の「魅力ある観光・リゾート地の形成」(全体12.6)では全地域で10～15の高い数値となっており、全県共通の重点施策であるといえる。

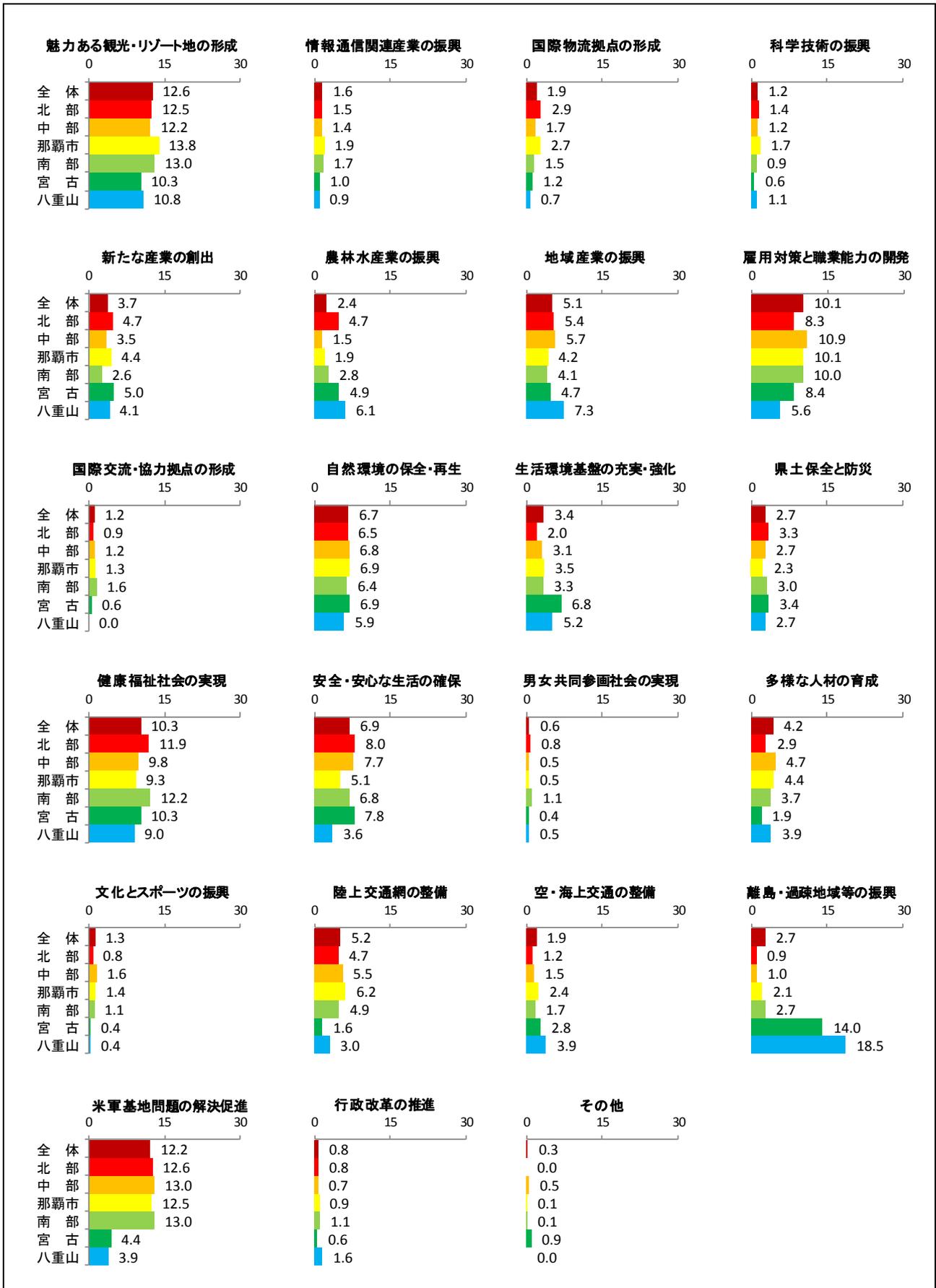
2位の「米軍基地問題の解決促進」(全体12.2)では、宮古(4.4)、八重山(3.9)が1ケタ台にとどまっている。

3位の「健康福祉社会の実現」(全体10.3)では全地域で10前後の数値となっており、地域差が少なく全県共通の重点施策であるといえる。

4位の「雇用対策と職業能力の開発」(全体10.1)では八重山(5.6)が他の地域より低い。5位の「安全・安心な生活の確保」(全体6.9)では八重山(3.6)が他の地域より低い。6位以下の項目では地域間の差は小さい。

ただ13位の「離島・過疎地域等の振興」(2.7)は宮古、八重山が他地域より際立って高く、本島と離島地域の住民意識の違いがはっきり現れている。

図 5-2-2 地域別 重点施策の優先度（加重平均）



### (3) 年代別に見た重点施策

重点施策を年代別に加重平均で比較したのが図 5-2-3 である。

県全体 1 位の「魅力ある観光・リゾート地の形成」(全体 12.6) では 10 代 (17.9) を始め 30 代以下の若年層で高くなっている。

2 位の「米軍基地問題の解決促進」(全体 12.2) では 40 代以上の年代で数値が高く、30 代以下で低くなり、世代の差が見てとれる。

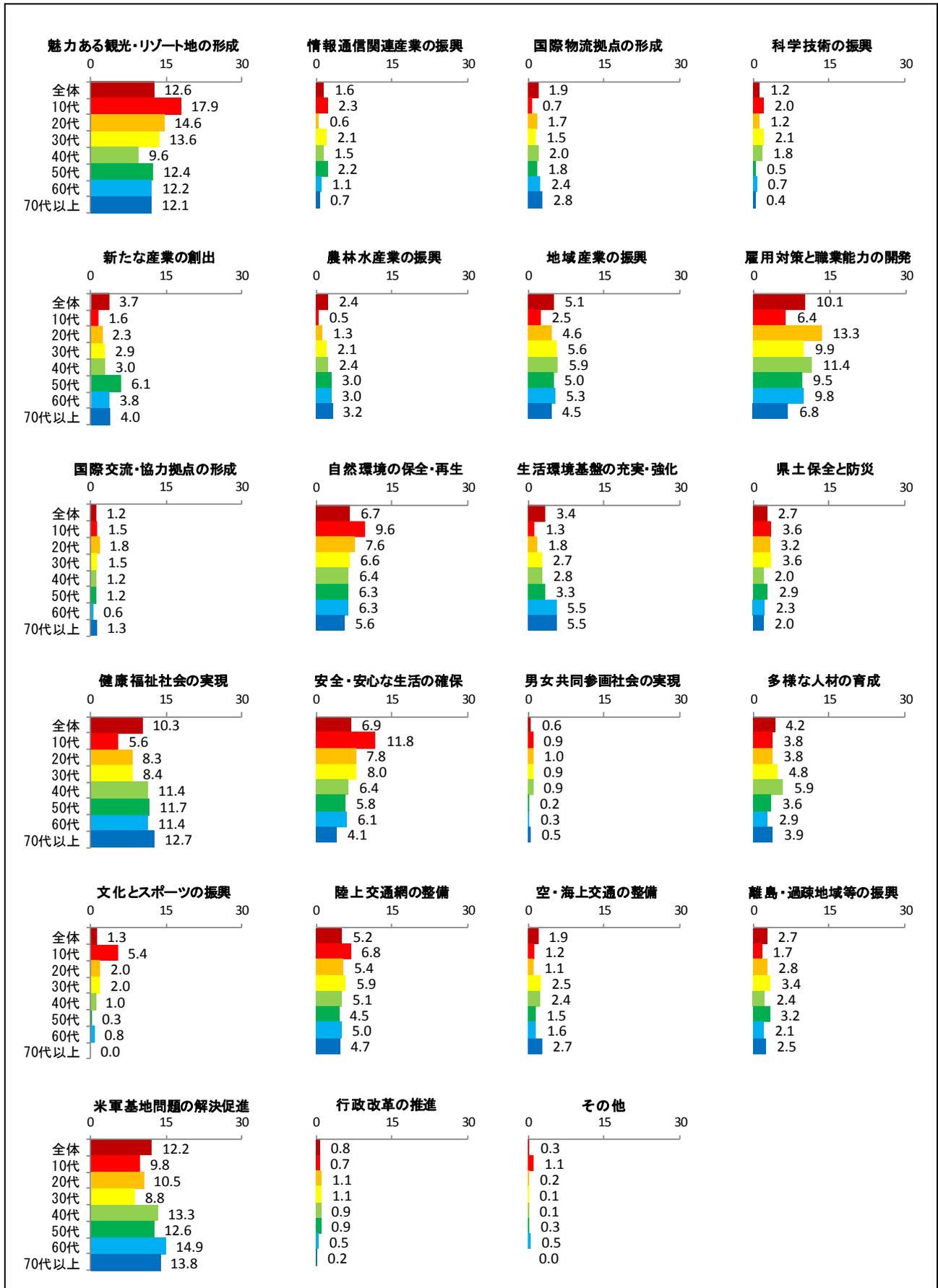
3 位の「健康福祉社会の実現」(全体 10.3) では 30 代以下の年代に比べ、40 代以上の年代で高く 10 を超える数値となっている。

4 位の「雇用対策と職業能力の開発」(全体 10.1) では 20 代で高い数値となっている。

5 位の「安全・安心な生活の確保」(全体 6.9) は 10 代で高い数値となっている。

このほか「自然環境の保全・再生」(全体 6.7) は年代が低いほど高くなっている。

図 5-2-3 年代別 重点施策の優先度（加重平均）



#### (4) 性別に見た重点施策

重点施策を性別に加重平均で比較したのが図 5-2-4 である。

県全体 1 位の「魅力ある観光・リゾート地の形成」は男性のほうが高い。2 位の「米軍基地問題の解決促進」は男女差がほとんど見られない。3 位の「健康福祉社会の実現」は女性のほうが高くなっている。他の施策では、性別の差がほとんど見られないが、「新たな産業の創出」「地域産業の振興」では男性の方がやや高く、「生活環境基盤の充実・強化」「安全・安心な生活の確保」「多様な人材の育成」では女性の方がやや高い。

図 5-2-4 性別 重点施策の優先度（加重平均）

